

令和5年度 第1回仙台市地域保健・保健所運営協議会 議事録

開催日時	令和5年7月 11 日(火)14:00～
開催場所	市役所本庁舎8階 第一委員会室
委員 (敬称略)	實澤篤(委員長)、松永弦(職務代理者)、相澤雅子、猪股佳子、大森純子、小田島久美子、片倉成子、北村哲治、小林正裕、高橋喜治、千葉小香枝、保角真由美 (欠席) 赤坂和昭、加藤和子、小池和幸、小菅玲、佐々木秀美、橋本実
事務局	健康福祉局 局長、理事兼保健所長、障害福祉部長、保険高齢部長、保健衛生部長、保健所副所長、衛生研究所長、 新型コロナウイルスワクチン接種推進室総括担当課長、 地域包括ケア推進課長、保険年金課長、保健管理課長、医療政策課長、 健康政策課長、健康安全課長、感染症対策室長、生活衛生課長、 子ども若者局 局長、子ども家庭部長、総務課長、子ども家庭保健課長 区役所 青葉区保健福祉センター所長、宮城野区保健福祉センター所長、 若林区保健福祉センター所長、太白区保健福祉センター所長、 泉区保健福祉センター所長
次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 議事 (1) 令和5年度健康福祉局・子ども若者局の主要事業等について (2) 令和5年度 食品の安全性確保対策について (3) 新型コロナウイルス感染症への対応状況について (4) 「第2期 いきいき市民健康プラン後期計画」に基づく事業について (5) 「仙台市いきいき市民健康プラン(第3期)」骨子案について (6) その他 4. 閉会

1 開会

2 あいさつ

健康福祉局長及び子ども若者局長あいさつ

【委員長】

コロナが5類になり、ある程度世の中が元通りとなってきたが、コロナ禍で閉じこもってしまった方々

がそのまま動けなくなっていたり、取り残されていないかどうかをみていかなければならない。ここにいる委員の方々と各担当で実情を把握しながら、仙台市の方向性がより良いものになればと思う。コロナによって、第2期のいきいき市民健康プランでやりたいことが、なかなかやり切れていないところもあると思うが、次の第3期でプランを、よりよいものとしていかなければならない。今日は骨子案が説明されるので、委員には忌憚なくご意見いただき、よりよいものを作れるように進めていきたい。

《新委員の紹介及び挨拶》

高橋委員及び保角委員挨拶

《職員の紹介及び協議会の成立報告》

### 【委員長】

今回の議事録署名を猪股委員に依頼。

### 3 議事

(1)「令和5年度健康福祉局・子ども若者局の主要事業等について」

事務局(保健管理課長及び子ども若者局総務課長)から資料1のとおり説明

質問・意見等なし

(2)「令和5年度 食品の安全性確保対策について」

事務局(生活衛生課長)から資料2のとおり説明

質問・意見等なし

(3)「新型コロナウイルス感染症への対応状況について」

事務局(感染症対策室長及び新型コロナウイルスワクチン接種推進室総括担当課長)から資料3-1、3-2のとおり説明

質問・意見等なし

(4)「『第2期 いきいき市民健康プラン後期計画』に基づく事業について」

事務局(健康政策課長、感染症対策室及び若林区保健福祉センター所長)から資料4のとおり説明

### 【松永委員】

資料4の8ページの『(2) 予防接種事業』について、9価の HPV ワクチンが今年度から定期接種に入ったので、個別接種をぜひお願いしたい。仙台市医師会と仙台市産婦人科医会、仙台市小児科医会から仙台市に申し入れているが、その後どうなっているか。

#### 【感染症対策室長】

要望を受け、個別通知の準備を進めている。準備ができ次第、対象者の方へキャッチアップ接種も含めての発送を予定している。

#### 【松永委員】

資料4の7ページの重点分野5の受動喫煙防止について、イエローグリーンキャンペーンという取り組みが佐世保から始まり全国に広まってきている。後ほど仙台市医師会の取り組みで紹介するが、ぜひ仙台市にも協力をお願いしたい。今年はライトアップを仙台放送のスカイキャンドルや仙台市医師会の急患センターや看護専門学校でも行った。東北6県では福島県が県全体で事業主を取り込み、大々的に行っている。

#### 【健康政策課長】

予算の関係もあるため、この場で回答することはできないが、皆様の活動を支えていけるような形をとれば良いと思っている。

#### 【片倉委員】

資料4の3ページの『(4)健康診査結果でリスクのある人への重症化予防のための取り組み～』の2行目で、ハイリスクの方に保健指導の充実を図るという表現になっている。先日登米市の糖尿病の研修会において、若林の赤井医師(事務局補記:東北医科薬科大学若林病院の赤井裕輝医師)から、糖尿病腎症の人工透析に至るまでという講演で透析患者1人につき、年間5～6百万円くらいかかると伺った。登米市も大変悪い結果で、その結果について、登米市の担当者が保健指導の充実を図るとまとめたが、その医師から、慢性腎不全や糖尿病腎症の患者は症状がないため、なかなか医療機関を受診しないので、とにかく訪問してほしい、とコメントされた。仙台市で考えていることはあるか。

#### 【健康政策課】

糖尿病は仙台市も多く、次に説明する第3期のいきいき市民健康プランの中でも検討していかなければいけない事項だと考えている。現在の対応は、重症化予防として要医療判定者で医療機関を受診していない方には通知を送り、それでも、受診していることが確認できない人については電話、最終的には訪問という形をとっている。そういった方々は糖尿病という問題だけでなく、生活上の様々なリスクを抱えていることがあるので、伺ってお話しをすることが大事だと考えている。

併せて現在CKDのモデル事業も展開している。仙台市で透析を受けている患者が増加しており、令和3年度では2,533名が透析を受けている。今後も増えていくことが予想される。現在は病診連携を検討しているが、そもそも透析とまらないような対策も考えていきたい。

#### 【片倉委員】

資料4の6ページの『(5)高齢者のフレイル、低栄養予防についての知識普及と実践への啓発及び支援』について、地域の高齢者へ知識普及を図るとなっているが、現在、国は保健事業と介護事

業の一体的実施を進めている。仙台市はどこまで進めているのか。

**【保険年金課長】**

国では、令和6年度までに市町村において実施することとされており、仙台市でも令和6年度からの実施に向けて、現在、実務的な検討を進めている。どのように事業を展開していくかというところも含め、実務担当者のワーキング等を開き、準備を進めている。

**【委員長】**

糖尿病については、医療機関に通院していれば、それほど重症化しない。医療機関を受診しない人を治療に結び付けることが重要。保健指導で医療機関の受診につながらない人については医師と連携していくことが重要。

若林区の松本所長から説明のあった住民の方々への意識付けを上手に進められるとよい。

各関係団体の取り組みについて、松永委員、北村委員、千葉委員、片倉委員より資料4のとおり説明。

**【大森委員】**

仙台らしさをどう出すのかによって、市民を巻き込んでいけるかどうかに関係してくると思う。今回説明も、プランで決められているため、このような説明になるということはわかるが、事例として出てきた活動も、住民主体という言葉が使われており、行政や私たちのような専門職集団のそれぞれの団体や大学、教育機関などが入っていない。

もう少し仙台らしさ、住んでいるだけで健康になれる街にしていこうという話だったと思うので、行政や私たちのような専門職集団のそれぞれの団体や大学、教育機関、市民みんなでこういうことに参加するというような表現になるとよいと思う。

**【健康政策課長】**

現在の第2期プランでの仙台らしさについては、環境整備のところなどで含めていたつもりだが、仙台らしさを表すようなキャッチフレーズ的な言葉や市民の心を惹きつけられるようなものについては、いただいた意見を新プランに反映させていきたい。皆様からもお知恵をいただきたい。

**【委員長】**

仙台市は比較的、重点分野を支えるというところで健康関連部局だけでなく、他の部局による健康行動が整理されているのが強みだと思うので、その部分をより強くアピールしたり、市民だけでなく、市も積極的に動いているというところをより強調できればよいと思う。

(5) 『『仙台市いきいき市民健康プラン(第3期)』骨子案について

事務局から資料5のとおり説明

**【大森委員】**

プラン全体のイメージとして『社会環境の改善・整備』が全体を支えるところになると思うが、『環境づくり』、『基盤構築』というところが心許なく、一般的なもののような印象を受けるので、これまでの活動の実績などから近隣コミュニティづくりや学びの場の充実、居場所づくりなど市民の24時間の生活がイメージできるようなものを入れてもよいと思う。

#### 【松永委員】

歩きたくなる歩きやすい街。歩くということは健康の第1歩だと思うが、仙台にはハーフマラソンがあるが、歩くイベントがない。埼玉県の飯能市では、緑の山中の歩道を整備し、年に1回歩くイベントを行っており、全国にも広がっている。仙台は杜の都といわれているので、そのような歩くイベントがあればよいと思う。

#### 【健康政策課長】

現在は健康増進センターで七北田公園や榴岡公園などの大きな公園でのウォーキングイベントは開催しているが、本格的なものはない。まず、市民の方々が体を動かして楽しいと思えるようなところから始めていきたい。

#### 【委員長】

広瀬川沿いはどの程度遊歩道などが整備されているのか。梅田川沿いだと、所々に良い公園があるが、遊歩道などがすべて整備はされていないため、川沿いをずっと歩くことができず、もったいない。せっかくなので、フラッグシップ的なウォーキングコースがあってもよいと思う。

#### 【大森委員】

宮城オルレなどもオープンし、様々な年代の方が歩くということに関心を持っており、歩くことが観光にもなっている。仙台は観光都市でもあり、歩くことで街を楽しむ、魅力を感じてもらおうということもある。観光に来る人だけでなく、仙台市民が学校行事や子供会、近隣コミュニティの小さなグループなど、いろんなスタイルで楽しめるものが、様々な年代の歩くということに関心を持っている人たちのアイデアを集めて出来たらよいと思う。

#### 【猪股委員】

今年の緑化フェアは市中心部ではなく、仙台国際センターの方がメイン会場となった。目的として、仙台市民や観光で来る人も、中心部だけでなく、少し遠いところまで楽しく歩けるといったウォークアブルな街にしようということもあったかと思うが、あそこまで歩いて行けるかというと、なかなか厳しい。なにかしら、歩いていて楽しい、休めるベンチがある、お店があるというような、もう少し広域的な視点でまちづくりをしていかなければならないと感じた。それには、短期的なイベントを開催しつつ、なおかつ市民も含めた様々な視点で長期的なまちづくりを進めていく必要があると感じた。

#### 【相澤委員】

令和4年度に若林区の七郷で史跡めぐりをしながら、ウォークラリーをするというイベントがあり、とても良い企画だったが、参加者の年齢層が偏っていた。せっかくいいイベントなので、あらゆる年齢

層の方が参加できる形になればよいと思う。

松永委員から意見があったように、仙台市でも歩くイベントがあれば、参加しやすいと思う。緑化フェアもすごく楽しいイベントだったので、もう少し歩けるコースがあるとよかった。

また、市内の高校で長距離を歩くイベントがあるが、高校生の親も参加して歩いており、思ったより歩けるものだと感じた。ただ歩くより、いろいろな方からアイデアをいただき、途中で企画などがあるイベントが仙台にできると、楽しい行事が1つ増えるのかなと思う。

#### 【委員長】

小学校などと連携し、親子イベントとして河川敷のウォーキングなどを開催できれば、歩く機会の少ない親世代に歩く機会を提供できると思う。

#### 【大森委員】

仙台七夕の七つ飾りには、一つ一つ意味があるので、そういったところを切り口として市民を巻き込んでいくこともよいと思う。

#### 【小田島委員】

資料5の骨子案のサブタイトル『こころもからだもいきいき』の、『こころ』に対応する部分をさらに充実させてほしい。こども若者局長あいさつの中で、困難を抱える若者への支援強化という話があり、こども若者局の事業説明の中でも、こども・若者を取り巻く状況は複雑化しているという状況が示された。『こころ』の部分については、学齢期から必要に応じてしっかり連携をしていくという説明もあったが、健康福祉局とこども若者局だけでなく、教育局との連携を深めていく時期にきている。昨年1年間に全国で、自ら命を絶った子どもたちは541人で、10年前の倍の人数になった。

今日の配付資料である『市民の生活状況に関する調査』のリーフレットの中の市長メッセージは、今までにないくらい訴える、そして市民に理解していただける、インパクトが強いメッセージだと思う。社会全体で取り組む課題だということはどう市民の方々に理解してもらうかということになると、『個人の健康状態の改善』の分野である「こころの健康」の部分で、一人で悩まないでというところであったり、下の『社会環境の改善・整備』の「環境づくり」の分野で、社会全体の一人一人の多様な居場所の理解の促進といった部分の発信をより深めてほしい。

#### 【健康政策課長】

健康福祉局、こども若者局、教育局は現在も我々としては連携しているつもりだが、これからもより連携を深めていきたい。

また、市民の生活状況に関する調査は8月からポスティングされ、対象の家庭は全世帯を調査する。質問票の中には、健康についての質問も含まれているので、そういった相談があった際には連携して取り組んでいく。

#### 【小田島委員】

資料4の3ページの重点分野2の中で、『人材の確保と育成』とあるが、国でもこころの問題については、これまでにないぐらい力をいれている。専門家の大学の先生方が、こどもみんなプロジェクトの

ような形で研究し、その研究の成果を発表・発信している大学もある。発達・発育、身体の部分やこどものこころの健康などについても、専門的な先生の研修が受けられるような育成方法も考えてほしい。

#### 【委員長】

国の方針としても、誰も取り残さないという部分が大きな目標になっている。先ほど重症化予防のところでも、家にこもり、リスクのあることがわかっているが医療機関に来ない方や、SOSを出したいが出せない子どもたち、行き場所がないという子どもたちをどのように救っていくのか、令和17年まで仙台市が『誰も取り残さない』という部分を実行するにあたり、どういった文言を入れた目標とするのかによって、我々の次の12年間の行動規範が決まる。

#### 【健康政策課長】

本日欠席の委員の方もいるので、後日、改めて意見照会をさせていただく。

#### 【片倉委員】

「休養・こころの健康」の部分でヤングケアラー、子ども食堂、不登校の子どもたちへの支援について、資料1の21ページの『⑤不登校・引きこもり等への支援の充実』というところで、こういった方たちにも手を差し伸べられるようにしっかり予算が計上されており、安心した。

#### 4 閉会